



新型 Vantage GT3 クラウドストライク・スパ 24 時間レースで 歴史的勝利

- 新型アストンマーティン Vantage GT3 がベルギーにて 24 時間レース初優勝
- Comtoy Racing とアストンマーティンの新しいパートナーシップを祝す、マッテ
ィア・ドゥルディ、ニッキ・ティーム、マルコ・ソーレンセンの快勝
- アストンマーティンにとって 1948 年以来のスパ・フランコルシャン 24 時間レース総
合優勝
- アストンマーティン、英国のマニファクチャラーとしては 40 年ぶりの勝利
- 英国のウルトラ・ラグジュアリー・スポーツカー・ブランド、アストンマーティンが
GT のみとなった現代のスパ・フランコルシャン 24 時間レースで初優勝を飾る



2024年6月30日、スパ・フランコルシャン（ベルギー）：

6月29日、30日の週末にベルギーのスパ・フランコルシャンで開催された、GT3のみの世界最高峰の耐久レース、クラウドストライク・スパ24時間レースにて、アストンマーティンが鮮やかな総合優勝を飾りました。

アストンマーティンのパートナーチーム **Comtoy Racing** がワークスドライバーのマッティア・ドゥルディ（イタリア）、マルコ・ソーレンセン（デンマーク）、ニッキ・ティーム（デンマーク）と勝ち取った今回の優勝は、英国のウルトラ・ラグジュアリー・スポーツカー・ブランドであるアストンマーティンにとって1948年以来の快挙です。また、新型アストンマーティン **Vantage GT3** にとって初の24時間レース優勝であると同時に、スパ24時間が2001年にGTのみのレースになって以来、名高いウィングロゴを冠するアストンマーティンが主要なライバルを制した初めての優勝でもあります。

モータースポーツ界で「デーン・トレイン」の愛称で知られる、FIA GT世界耐久選手権チャンピオンに2度輝いたティームとチャンピオンを3度獲得しているソーレンセンのデュオは、2人合わせて3度のル・マン24時間レース優勝がありますが、チームメイトとして同じ車両で24時間レースの総合優勝を果たすのは今回が初めてになります。

ソーレンセンは次のようにコメントしています。「これはとても特別な瞬間です。新型 **Vantage GT3** が1年目で既に優勝を果たしたのは驚くべき成果です。素晴らしいクルマですし、この1年の間ずっと良い感触を感じていました。ですが、今回のようなレースで勝つには優れたドライビングと幸運以上のものが必要であり、アストンマーティン・レーシングと私のチームメイトたち全員の功績あってのものです。私はこの勝利をいつまでも忘れないでしょう。」

ティームも、次のように述べています。「これが私にとって、そしてアストンマーティンにとって何を意味するのかを言葉にするのは難しいです。私たちはこのレースで勝ちたいと長年努力してきました。それがこのような形で実現できたのは、本当に素晴らしい気分です。アストンマーティンに対する私の想いは、皆知っていると思います。特別な思い出がたくさんありますが、今回の優勝は中でも最高のものの一つです。」

ファナテック GT ワールド・チャレンジ・ヨーロッパの優勝経験者であるドゥルディにとって、今回のレースは耐久レース最高峰の舞台で輝く機会でしたが、実際にドゥルディは大きな活躍を見せました。レース序盤を含め、ドゥルディがコックピットに乗り込むたびに7号車は順位争いに加わり、今回のレースで複数回あったセーフティカー出動が最初に行われる前にはチームを先頭集団に導きました。

難しいレースとなった夜間は激しい雷雨や複数のインシデントに見舞われ、レースが数時間にわたって中断される中で、セーフティカー出動時のピットストップによってレースポジション

が 20 台分大きく変動することがあっても、Comtoy Racing は冷静さを失わず常に先頭争いから離れることはありませんでした。

毎回遅れを挽回して先頭集団に戻り、朝になってトラックが乾き始めるころには、ライバルのフェラーリ 1 台と BMW2 台、そしてパートナーチームの Walkenhorst Motorsport から PRO クラスに出場していたエンリケ・シャヴェス（ポルトガル）、ロス・ガン（英国）、デビッド・ピタード（英国）がドライバーを務めるもう 1 台のアストンマーティン Vantage GT3 の 34 号車との直接対決になっていました。

レース終盤で Comtoy Racing の 7 号車はフェラーリの後を 10 秒差で追っていましたが、フェラーリはピットイン時にピットレーンの入り口で立ち往生していた車に阻まれ、動くことができずに優勝のチャンスを逃し、スタンドで待つファンの期待に応えることはかなわず、ドゥルディが単独でゴールを駆け抜けていく展開となりました。

ドゥルディは次のように述べています。「ニッキとマルコと優勝できたことは、素晴らしい体験です。とても厳しいレースでしたが、私たちは完璧な走りができたとと思います。問題もなく、とてもうまくいきました。チームの全員を誇りに思います。」

Walkenhorst の 34 号車の Vantage GT3 は、ガンが何度か首位を奪う好調な走りで 4 位に入りました。

このレースの優勝経験もある Walkenhorst Motorsport は、AMR ドライバー・アカデミーの 2022 年卒業生のロマン・ルルー（フランス）と 2024 年の候補者ローカン・ハナフィン（英国）、マキシム・ロビン（フランス）がドライバーを務める 35 号車の Vantage GT3 でシルバーカップ優勝に手が届きそうなところまで近づきましたが、残念ながら日曜日の朝のセーフティカー出動後にクラス先頭を争う中でアクシデントに巻き込まれてしまいました。

アストンマーティンとしては記録的な 7 台の参戦となった今回、Comtoy Racing から出場した 4 台のうち 7 号車はレース中幾度か先頭に躍り出ましたが、チャールズ・クラーク（英国）、サム・デジョンヘ（ベルギー）、マティス・リスモント（ベルギー）、ザビエル・マーセンがドライバーを務めるシルバーカップの 21 号車も、レース序盤ではクラス首位を走り、6 位でフィニッシュしました。

今年初めにシルバーストンで初公開された新型ロードカーの Vantage から多くを受け継ぐ新型 Vantage GT3 は、アストンマーティンの実績ある接着アルミシャシーを中心に組み立てられ、恐るべき 4.0 リッター V8 ツインターボエンジンを動力源とし、快進撃を続けています。6 月だけでも、IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権、SUPER GT シリーズ、ニュルブルクリンク耐久シリーズ、ロード・トゥ・ル・マンの各レースで優勝を飾っています。さらに今回、アストンマーティンは最高の快挙の一つに数えられる優勝を自社のレース史に刻まれます。

耐久モータースポーツ責任者であるアダム・カーターは、次のように述べています。「今回の新型アストンマーティン **Vantage GT3** の素晴らしい優勝について、**Comtoy Racing** のパートナーの皆様には心からのお祝いと感謝をお送りします。シーズン開始時から、この車の実力は知っていましたが、スパでのパフォーマンスは優れた技術、忍耐、不屈の精神、実行力が一つになって達成されたものです。また、表彰台を獲得できなかったのはとても残念でしたが、**Walkenhorst Motorsport** の懸命な闘いにも称賛を送りたいと思います。アストンマーティン・レーシング全員の努力が、まだとても日の浅いクルマで既に実を結んでいます。スパ・フランコルシャン 24 時間レース優勝は、決して小さな功績ではありません。その 100 年の歴史の中で英国のマニファクチャラーが 3 回しか優勝したことがないことを考えると、さらにそのうちの 2 回がアストンマーティンによるものであることを考えると、これは私たちにとって耐久レースにおける最大級の勝利に挙げられます。」

スパ 24 時間レースが **GT3** の時代になってからのアストンマーティンの以前のベスト記録は、ガン、ソーレンセン、チームがレースの大半で先頭争いに絡んだ **2021** 年の総合 **3** 位でした。その前の時代、アストンマーティンの **GT** での最高位は同じく **3** 位で、**2008** 年に **Gigawave** の **DBR9** が **GT1** クラスで達成しました。アストンマーティンがスパ 24 時間レースで前回優勝したのは **1948** 年で、今とは異なる当時のレギュレーション下、英国人のシンジソン・ホースフォールとレスリー・ジョンソンが **DB1** として知られる **2-Litre Sports** で獲得しました。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-M07jcdCiCl>

アストンマーティン・ラグオンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって**1913**年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、**Vantage**、**DB12**、**DBS**、**DBX**に加え、同社初のハイパーカーである**Valkyrie**など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、**Racing. Green.**サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは**2025**年から**2030**年にかけて、**PHEV**と**BEV**を含むブレンドドライブトレインアプローチによる内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーと**SUV**のラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda
Head of Regional Marketing & Communications-Asia Pacific
有澤 久美子

kumiko.arisawa@astonmartin.com

Marketing & Communications Manager-Japan
松永 悠理

yuri.matsunaga@astonmartin.com

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp